

20年後を見据えた将来の展望は 基本的にはコンパクトなまちづくり



加藤 宏樹 議員

農家存続が矢吹町を支える

加藤 地方の活性化は農業の活性化とも言われています。農地に規制や制限をするなら国・県・町は農家を保護すべきである。

農家は土着で生活するしかない町民です。町を支えてきた農家存続が非常に重要です。積極的に後押しする施策はあるか、また国・県に支援を要請するつもりはあるか。

町長 支援策として、平成27年度の水稻用種子購入費の2分の1を助成したいと考えております。将来を見据えた農業振興政策としては、新たな農業振興制度等を活用することや、町農産品による6次化商品の開発、更には付加価値の高い作物栽培等へ取り組みむことが重

要であると認識しております。これらの取り組みにより、本町の農業を持続的に発展させ、経営の安定・向上が実現されるよう、関係機関と十分連携を図り、施策を推進します。

4小学校でやれるのか

加藤 財政的に余裕のない町が、希望的観測のみで20年後も4小学校を維持する事が可能なのか疑問が生じる。幼稚園・保育園等の統合問題も含めて、議論が必要と考える。又将来の負担軽減を図る意味でも早期に検討委員会を立上げ対処すべきと思うが町の考えは。

町長 町内4小学校はそれぞれ長年の歴史を持ち、地域の学校として親しまれております。又、地域コミュニ

ティの場であり、地域の人々のふるさと意識のよりどころでもあります。町としましては、子育て支援・少子化対策にもしっかりと取り組み、若者定住化や子育て環境のよりよい整備にも努めて参りますので、現在の状況の中では統合を検討することとは、時期尚早であると考えております。

企業は広い道路に面した平坦な土地を求めている。

加藤 工業団地としては赤沢や丸の内地区を町は推進しています。川合運輸やレンゴーの会社を見た方は広い道路に面した平坦な土地を求めると思います。

そこで石川街道・棚倉街道・産業道路沿いの第一種農地の指定や農振地域の見直しを行

い規制の緩和をすべきと考えるが町の考えは。

町長 現在、平成27年度末の完了を目指し、「矢吹町都市計画マスタープラン」の見直し作業を行っておりますが、その中において、工業拠点として位置付けられている地域は、

矢吹インターチェンジ周辺及び丸の内地区内があります。これら2つの地域は町が造成した

工業拠点として位置付けられる
矢吹IC周辺



赤沢工業団地及び丸の内工業団地が所在し、その周辺にも工業集積に十分足り得る未利用地もございます。無秩序な開発を避けるためにも、当該地域への集積が先決と考えております。

その他の質問事項

- ・ 駅北側の線路横断道路の整備
- ・ 本町中町地区の区画整理事業